

平成30年度狭山市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

開催日時 平成31年1月17日(木)
午前10時～正午
開催場所 狭山市役所7階 職員研修室
出席者 10名
欠席者 0名
市側出席者 総合政策部長、総合政策部次長兼基地対策課長、商業観光課長、
総合戦略推進担当課長

議題等

1. 狭山市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況について
2. 地方創生関係の交付金等を活用した事業について

質疑

(1) 狭山市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況について

- 委員 今秋の消費税増税により、景気は冷え込むことが予想される。この影響は地価にも連動するため、市の収入源である固定資産税等にも及ぶことが考えられる。今後の税収が不安定になる状況も考えられるため、今後の経済動向を注視していく必要がある。
- 委員 狭山市内であっても、地域によって状況が異なっている。さらに、国の動向もあるので、あまり大きな目標を掲げるのは難しい。ある程度特化して、課題を煮詰めなおして進めていくことが必要。
- 市側 総合戦略で定めた数値目標は、国の数値目標に準じている部分もあり、高めに設定している。今後は、狭山市独自の課題等を認識し、様々な意見を聴取しながら目標を設定していきたい。
- 委員 中央公民館跡地をはじめ、市内に高層マンションが建設されているが、果たして狭山に本当に必要なものなのか。狭山は戸建てを入手しやすい環境にあるため、例えば、庭の広い家の建築を促すなど、目先を変えたまちづくりも必要だと思う。

委員 若者は、勤務先に近い場所や、利便性の高いところに集中してしまう傾向が強く、これを阻止するのは難しい。東京や大阪、名古屋等に転出してしまうと、なかなか故郷に戻ってくることは期待できない。埼玉県は郷土愛が低いという記事を見た記憶もあるので、埼玉県全体で、郷土愛を高めるような取組が必要ではないか。

委員 狭山市駅周辺は、再開発により活気付いている印象がある一方で、少し駅から離れた地域では空家が目立っている。老朽化した家屋は倒壊の危険もあるため、周辺住民が不安に感じている。現状でそのまま活用するのは難しいため、市が空家の管理を請負い、リノベーションしたうえで、民間企業や市民団体が活用する仕組みが作れないか。

市側 空家については、家屋の倒壊の危険がある特定空家として認定されると、指導や勧告、撤去を行うことが可能となる。こうした取組が今年度から始まったところであり、今後の仕組みや活用方法については、持ち主の意向を確認しながら、更に検討を重ねていく。

委員 「本物づくりのまち 狭山市」のリーフレットを拝見したとき、市内には素晴らしい製造業が数多くあると再認識した。他にも、市内には魅力的なイベントやスポットがたくさんあるが、もっと様々な形で情報を発信し、知ってもらうことが重要ではないか。情報発信により、伝わるだけでなく、次のムーブにもつながるものがあると思う。

委員 国の動向、経済の動向をみて、市は様々なことに取り組んでもらいたい。ウイークポイントは、少しの工夫でストロングポイントにもなり得るので、知恵を出し合い、工夫を重ね、官民で力を合わせて進めていければよいと思う。

委員 総合戦略が策定された時は、厳しい将来の展望に暗い気持ちになったが、この4年間で狭山市は様々な施策をうち、大きな成果を上げていると感じている。持続可能なまちにするためにも、未来を担う子どもたちに、狭山市に住み続けたいという思いを持ってもらうため、官民で力を合わせていくことが重要である。

(2) 地方創生関係の交付金等を活用した事業について

～入間川とことん活用プロジェクト事業について～

委員 入間川は狭山市の大切な資源であり、ここを核として、子育て世代をターゲットとした施策を実施してもらいたい。入間川のそばで遊んで育った子どもたちが、就職等を機に転出したとしても、マイホームを考える年代になったときに、育った環境の魅力を再認識し、戻ってきてくれると思う。定住促進にすぐ効果が出なくても、長い目で見れば非常に有効であると思う。

委員 イベント時に駐車場が不足するとのことであるが、コミュニティバス等の活用はいかがか。

市側 他の部署で活用しているケースもあるが、狭山市駅や市役所駐車場からの距離がそれほどではないため、現段階での活用は考えていない。

委員 昨年、ハロウィンパーティーでこの場所を活用したが、予想以上の来場者数に驚いた。アクセスしやすい場所であるため、今後も賑わいが期待できると思う。不定期なイベントでの活用だけではなく、何か目玉となるような常設施設等を誘致出来れば、更に集客が見込めるのではないか。

委員 狭山市の年間の観光客数はどれくらいか。

市側 公式な数値ではないが、入込観光客数は年間 200 万人程度である。

委員 この場所は、非常にアクセスしやすいうえに、近くを通りかかっただけでも中の様子が伺えるので、ロコミが広がりやすいのではないか。また、短期間に様々なイベントが行われており、市が積極的にこの事業に取り組んでいるのが伺える。

委員 昨年は「入間川リバフェス」と「狭山大茶会」の開催に合わせ、「狭山茶の里ウォーキング」を開催した。2か所のイベント地点を経由するという企画で実施した結果、参加者数は6年前の第1回開催以降、最大の3,000人超えを記録した。イベント同時開催は参加者の分散も懸念されるが、相乗効果は大きいと思う。

委員 この4年間で、この場所は見違えるほど綺麗に整備され、多くの人

に憩いの場として利用されている。狭山市は入間川が貴重な資源であるため、この場所を新たな狭山市の顔とすべく、多くの市民団体に活用を促すとともに、様々な取組を進めてもらいたい。